

令和4年4月1日
施設運営部

沖縄在来植物を利用したキャンパス整備計画

□千原キャンパスの現状

現在、千原キャンパス、特にプロムナード法面において、アメリカハマグルマとギンネム（写真1）がほぼ全面に生い茂っている。アメリカハマグルマは、繁殖が非常に旺盛で、以前から県内の公園や河川等さまざまな環境に定着しており、見栄えは黄色い花が咲き綺麗だが、他の植物が生育できないほど繁茂するため、生態系への影響が懸念されている。

実際、アメリカハマグルマは、環境省が指定する生態系被害防止外来種リストの緊急対策外来種で、ギンネムは、重点対策外来種であり、両者とも沖縄県において防除計画を推進している。

このような現状を踏まえ、千原キャンパス内の外来種（特にアメリカハマグルマとギンネム）の防除を計画的に行い、沖縄固有の在来植物に植え替える環境整備計画を策定する。

□在来種植栽に関するこれまでの経緯

平成28年度ごろから、千原キャンパス内において、沖縄固有の在来種であるクロイワザサ、イソノギク、コウシュンシバ等を、高相元熱帯生物圏研究センター教授が中心となり、試験的に構内に植栽してきた。

その結果、在来の海浜地被植物であるクロイワザサ（写真2）が、最も管理のしやすさや繁殖面で適していることが分かり、令和2年度より毎年植栽範囲を拡大してきている。

クロイワザサは、地被植物のため、雑草の侵入を防ぎ、生長しても低茎のまま横に広がるため、管理も容易である。（初期の段階で雑草を除去することで、生長した場合、草刈りの必要があまりない）

また、クロイワザサは、挿木にて増殖することが容易であり、構内に苗床（写真3）を拡大することで供給体制を整えているが、クロイワザサの苗木は販売されておらず、緑地管理班により苗床を整備しているため、苗木の供給には限界がある。

□整備計画

第4期中期計画・中期目標期間において、千原キャンパスプロムナードの法面を中心に沖縄固有の在来種を利用した環境整備を行う。（表1）（別図）

また、植栽名板（写真4）も整備し、沖縄固有の在来植物の認知度向上を図るとともに、環境報告書等においてその活動を紹介することにより、今後、持続的に展開する道標をつくる。

なお、現在採用しているクロイワザサについては、今後の育成状況や苗床の供給状況を踏まえ、植栽の種類を変更する場合もある。

また、植栽については、緑地管理班の他、学内及び地域ボランティア等の協力を得ながら環境整備を行う。

※ループ道路の法面については、令和4年度法面改修工事にて、在来種の吹付を含めた法面保護工事を実施することとしている。

(表1) 在来种植栽年次計画

年度	植栽場所	植栽の種類	既存植栽の種類
令和2年度	防災倉庫裏法面	クロイワザサ	チガヤ等
令和3年度	国際交流会館	クロイワザサ	チガヤ等
令和4年度	プロムナード法面①	クロイワザサ	アメリカハマグルマ等
令和5年度	プロムナード法面②	クロイワザサ	アメリカハマグルマ等
令和6年度	プロムナード法面③	クロイワザサ	アメリカハマグルマ等
令和7年度	プロムナード法面④	クロイワザサ	アメリカハマグルマ等
令和8年度	プロムナード法面⑤	クロイワザサ	アメリカハマグルマ等
令和9年度	プロムナード法面⑥	クロイワザサ	チガヤ等
令和10年度	プロムナード法面⑦	クロイワザサ	チガヤ等

※植栽の種類は生育の状況により変更する場合がある



(写真1) アメリカハマグルマ等 (教育学部前)



(写真2) クロイワザサ植栽 (令和4年度)



(写真3) 苗床 (クロイワザサ挿木)



(写真4) クロイワザサ植栽名板

千原キャンパス在来植物整備計画及び実績報告

